日英パラレルコーパスにみる日本語格外連体修飾形の訳され方

田辺 和子(日本女子大学文学部) †

Variation in Japanese-English Translation of Case-Outer Relative Clauses ∼In the Case of Japanese-English Pararel Corpus∼

Kazuko Tanabe (Japan Women's University)

要旨

本研究は、日英パラレルコーパス(中條・アンソニー: 2013)を使って、日本語の格外連体修飾形がどのように英語に訳されるか分析したものである。その訳され方は、被修飾語(いわゆる底の名詞)と修飾節に格関係がないので、意味解釈によってさまざまな様式を採る。現在のところ、大きく分けて次の5つのタイプが抽出されている。例えば、①「(~する)事態」に対して、動詞を用いる。②「(~する)必要」に対して、助動詞および形容詞を用いる。③「(~する)動機」に対して、分詞構文で説明を加える。④名詞修飾節を作る。⑤まったく、該当する表現がなく文全体で状況を描写する。つまり、日本語の被修飾名詞に相当する英語の抽象名詞を用いるのではなく、何らかの動詞を用いて活動として表現する傾向が見られた。これは、Cassirer(1989)が述べるように、「日本語は、名詞的な型を厳密に形成して対象的な見方をする」特徴を表している。

1. はじめに

本研究は、第6回コーパス日本語学ワークショップ、ポスター発表「BCCWJと日英パラレル新聞コーパスに基づいた格外連体修飾形の研究」、及び第7回口頭発表「BCCWJに拠る名詞別格外連体修飾形の形成傾向の分析」の考察をふまえて、今回は、日英パラレルコーパス WebParaNews(中條・アンソニー:2013)を使って、格外連体修飾形の英訳のヴァリエーションの分類を試みたものである。

日本語の格外連体修飾形(いわゆる寺村(1992)のいう「外の関係」、すなわち「さんまを焼く<u>におい</u>」という例のように、連体節の主名詞(底の名詞)「におい」が、連体修飾節内部の用言の「焼く」の補語としての格関係を持たない形)は、インド・ヨーロッパ言語と比較して、その特異性を指摘されている。

言語類型論者の Comrie (1996) は、「誰かがドアをたたく音」という日本語の例文を挙げ、 'the noise of someone knocking at the door'という英訳を示しながら、"Asian type" の名詞修飾形であると述べている。また、日本語全体の特徴としてドイツの言語哲学者 Cassirer は、『シンボル形式の哲学』(生松・木田訳、1989: pp.378 - 379)において、H. ヴィンクラーを引用し「(日本語は)・・・動詞的名詞をともなう単一の支配的な本名詞によって明確に表現されていることになる。」と記し、また、アルタイ語圏の諸言語の特徴として「文章構造の全体が、一つの対象的表現を単純に他の対象表現と並べ、付加語的にそれと結合する、

_

[†] tanabeka@fc.jwu.ac.jp

というように組み立てられる。」と述べている。

このような記述から、日本語の格外連体修飾形は、比較言語学的観点からその意味論的・ 語用論的結びつきを考察するに値するテーマとして意義のあるものと判断し、取りあげる ことにした。

2. パラレルコーパス画面



図 1 WebParaNews による「事態」の画面

3. 日本語格外連体修飾節の英訳のヴァリエーション

本項で取り上げる「名詞」の選択は、寺村(1992)、大島(2010)の例文の中で取り上げられている名詞や、「連体修飾を形成しやすい普通名詞の順位表」(田邊:2015 p. 166)を参考にして選んだ。

3.1 動詞を用いる

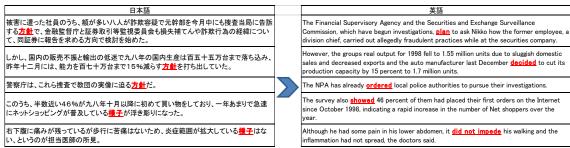


図2 動詞を用いるもの

「方針」の名詞の英訳として'decide' 'intend to' 等の動詞が用いられる。「方針」を「方向性を定める」という意味解釈において、「決定する」という動詞が適切との判断からであろう。その他の例としては、「意見」では、'favor' 'suggest'などの動詞が使われ、「事実」において

は、「事実を明らかにする」は、'claim that~'「事実をかみしめる」は、'consider that~'と訳されている。「様子」においては、'appear to be~'が用いられている。

3.2 助動詞および形容詞を用いる

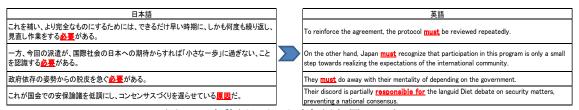


図3 助動詞および形容詞を用いるもの

「必要」の英訳例の多くに、助動詞'must'が用いられている。日本語の「強い必要性がある 状況」表現を、英語において「人間の行動の義務化」表現と転換するところが、日英二カ 国語のそれぞれの特徴が表されている。また、「原因」の英訳として'responsible for~'が用 いられ、人間中心の問題の根源の「ありか」を明示する表現と転換されているのも同様な 判断だと考える。また、人間に責任を負わせない場合でも「原因」は、'due to~'と訳され ている。

3.3 分詞構文を用いる



図4 分詞構文を用いるもの

表現形式の選択として、英訳では特定の動詞を分詞構文として用いるパターンもしばしば見受けられる。日本語における名詞修飾形の持つ状態的表現要素と、英語における行動的表現指向の折衷案として適当であるためだと推察する。図4では、「事態となっている」に'leaving ~'、「動機となった」に対しては、'prompting ~'、ここでの「様子」は、「フーリガン」の乱暴ぶりを表す目的で'throwing ~'が用いられているのがわかる。

3.4 名詞修飾節を用いる



図5 名詞修飾節を用いるもの

このグループは、特に英訳において日本語原文と構文的にも、意味的にも大きな差異が見られない例である。「動機」においては、'motives'とほぼ「動機」に相当する名詞で処理する例文もあった。「命令」においては、ほぼ直訳の語である'order'が名詞または動詞かのいずれかで訳されていることが多かった。「案」においては、名詞では'plan' が頻繁に用いられていた。

3.5 該当する部分が特にないもの

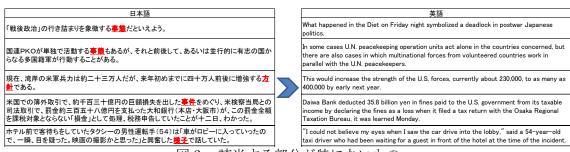


図6 該当する部分が特にないもの

文面上は、特に外の関係の底の名詞の該当部分の訳と思われる表現が認められない例文も 少なくはない。「様子」「事態」「事件」などの名詞は、特に訳さないでも、その文全体が表 現している状況を描写することができるからである。

4. まとめ

格外連体修飾形の英訳のされ方は、名詞修飾という枠組みを超えて、動詞および助動詞、 形容詞などの用言に類するものに訳されることが多い。その名詞によって、同一の訳語や 表現を用いられることが多いものと、訳のヴァリエーションが広いものとある。これらを 全体的に考察すると、日本語が名詞を用いて、付帯的状況説明として表現する傾向がある ことに対して、ヨーロッパ諸語においては、動詞の持つ動的意味を中心に据える傾向がある ることが判明した。

謝辞

本研究は、文部科学省科学研究費補助金、基盤(C)課題番号 25370496 (研究代表者: 田辺和子) による補助を得ています。

文 献

Cassirer, Ernst. (1989) 『シンボル形式の哲学 (一)』 岩波文庫

Chujo, K., K. Oghigian and S. Akasegawa, A Corpus and Grammatical Browsing System for Remedial EFL Learners. In Leńko-Szymańska, A. and A. Boulton (eds.), *Multiple Affordances of Language Corpora for Data-driven Learning*. pp. 109-128, Amsterdam: John Benjamins, 2015.

Comrie, Bernard. (1996) The unity of noun modifying clauses in Asian languages. *Pan-Asiatic Linguistics*: Proceedings of the Fourthe International Symposium on Languages and Linguistics, January 8-10, 1996, Volume 3, pp.1077-1088.

Comrie, Bernard. (1998) Rethinking the typology of relative clauses. *Language design*. pp.59-86. Kawaguchi, Yuji(eds.). (2007) *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*. John Benjamins. Amsterdam/Philadelphia.

Matsumoto, Yoshiko. (1988) Semantics and pragmatics of noun-modifying constructions in Japanese. *Berkeley Linguistics Society* 14, pp.166-175.

大島資生 (2010)『日本語連体修飾節構造の研究』ひつじ書房

田窪行則編(1994)『日本語の名詞修飾表現』くろしお出版

田邊和子(2015)「BCCWJ に拠る名詞別格外連体修飾形の成傾向の分析」『第7回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』

寺村秀夫 (1975-1978) 「連体修飾のシンタクスと意味(1)-(4)」寺村(1992)所収寺村秀夫 (1992)『寺村秀夫論文集 I―日本語文法編―』くろしお出版